

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05278	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	mRNA代謝が司る免疫制御機構の解明	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	竹内 理 (京都大学・大学院医学研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、免疫応答における免疫関連 mRNA 代謝を多面的に解析することを目指している。</p> <p>特に mRNA 3' 非翻訳領域 (UTR) を介した免疫細胞の時空間制御においては、mRNA 分解酵素 Regnase-1 による mRNA 分解の分子機構の解明や類似の RNA 結合タンパク質である Roquin との分子機構の違い、Regnase-1 ファミリーである N4BP1 の役割など優れた研究成果を出している。また、Regnase-1 が、潰瘍性大腸炎や肺線維症に関与することも明らかにしてきており、今後の進展が期待される。さらに、コドンの3番目の塩基の違いにより、mRNA の安定性が制御されるなど独創的な研究成果も論文として発表している。</p>		